

## 雑感

■ 11月最終週。地域（本校区）のボランティアさんが一同に集まり、日ごろの活動内容を紹介しながら意見交流を行った。最近面白い企画が始まった？（雑感）との感想をいただいた。スマホ？で見るから「もう少し見やすくできる？」とリクエストをいただき改良を加えてみた。■ それにしてもこの学校には、いろんな人が出入りしている。実に面白い。知らない人は理解不能かもしれないが、かつていろんな職種で活躍した先輩方が学校という場所で子どもたちの教育に関わってくれている。今や学校というところは、教科書にない生きた教材で教育を行うことがとても大切である。その一つが地域コーディネーターの人たちによる教育活動である。朝夕の見守りは勿論だが、放課後学習の先生役、花壇や環境整備、菊づくりや古代米の栽培、図書室の貸し出しや本の読み聞かせ本当に多岐にわたり様々な仕事を請け負っている。そんな活動の中、子どもたちは地域の大人の関わりによって少しずつ成長している。■ 意見交流の中では、この地域だからこそできることがあるのだという。みんな心の奥底に「楓ちゃん事件」のことが残っている。見守り・地域連携、何もなかったら今みたいにご近所とここまで親しく連携していない。教訓は生きている。教訓といえば災害に備えて何ができるかということである。東北3.11の後、南海トラフ地震が言われて久しいが本校に於いては、避難場所での救援を待つ前にできることとしてかまどベンチを3基作っている。一つのかまどで2つの鍋が載せられる。鍋一つで200人分の汁物が作れるのである程度の量をこなすことができる。校区内には、44カ所の井戸があるそうだが、そのうち15カ所は飲み水として活用できるとの事。これもボランティアさんたちの調査によるものである。阪神大震災時は、早朝だったこともあり地域の自助活動が生死の分け目であったといわれている。地域での祭りごと、催しが多い地域ほど災害被害者が少ないとの報告もある。■ 今や年間、祭り（鳥見小、富北小、富雄中）動員人数から算出すると1万人近くの人たちが動く、ここ富雄地区。子どもたちを思い、地域を大切に思う思いこそ「自助活動日本一」に向けて胸を張れることではないだろうか。地域ボランティアさんの眼が明日も富雄地区の子どもたちを暖かく見守ってくれている。2017.11.29